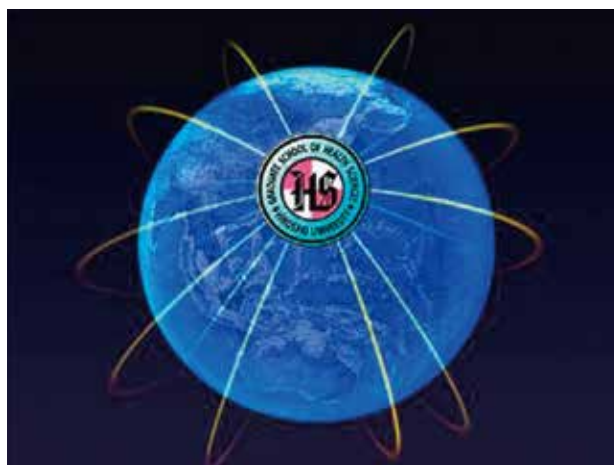


弘前大学大学院保健学研究科
高度実践被ばく医療人材育成プロジェクト
平成25年度活動成果報告書

平成25年度文部科学省特別経費事業

「緊急被ばく医療の教育・研究体制の高度化及び実践的プログラムの開発」

— 高度実践被ばく医療人材育成グローバル拠点の形成 —



平成26年6月

目次

序文

I	プロジェクトの概要	1
1.	事業の目的・目標	2
2.	活動組織	3
3.	弘前大学における全学被ばく医療体制	4
4.	プロジェクト年度計画（平成25年度～平成29年度）	5
5.	平成25年度の事業目標・計画	6
II	各部門の活動報告	7
1.	プロジェクト推進本部	8
1)	活動目標と計画	8
2)	活動の概要	8
3)	広報担当者会議	9
4)	浪江町支援活動委員会	20
5)	第5回緊急被ばく医療国際シンポジウム	22
6)	被ばく医療人材育成基盤研究支援事業	24
7)	総括と次年度へ向けた課題	24
2.	継続事業強化・推進部門	26
1)	活動目標と計画	26
2)	実施内容	26
(1)	現職者研修	26
(2)	平成25年度青森県国民保護共同実動訓練	37
(3)	平成25年度原子力防災訓練	45
(4)	弘前大学よろず健康相談事前研修開催	47
(5)	その他の研修等参加	50
(6)	被ばく患者対応トレーニングマニュアル 発行	55
3)	総括と次年度へ向けた課題	56
3.	高度実践看護教育部門	59
1)	活動目標と計画	59
(1)	「放射線看護」専攻教育課程の申請	60
(2)	関係機関等との連携、情報収集	63
(3)	特任教員の採用	66
(4)	基盤研究の推進	67
2)	実施内容	67
(1)	教育プログラムの作成	67
(2)	教育のための準備：研修会への参加	68
(3)	情報発信・国際交流	78
(4)	博士前期課程「被ばく医療コース」修了看護職者の活動報告	93
3)	総括と次年度へ向けた課題	97

4. 放射線リスクコミュニケーション教育部門	99
1) 活動目標と計画	99
2) 実施内容	99
(1)国内外の研修への教員派遣及び実践	99
A. 研修派遣	99
B. 実践	111
(2)公開講演会開催	116
(3)図書充実	118
3) 総括と次年度へ向けた課題	119
5. グローバル人材育成部門	121
1) 活動目標と計画	121
2) 実施内容	121
(1)ストックホルム大学 Siamak Haghdoost 博士の招聘と 講演会およびセミナーの開催	121
(2)ストックホルム大学 Andrzej Wojcik 博士とドイツ連邦軍放射線生物学研究所 Harry Scherthan 博士のセミナー開催	123
(3)修士・博士課程の学生の国際学会等への参加を支援	125
(4)韓国 KIRAMS 主催防災訓練の紹介～ Min-Su Cho 先生 (KIRAMS) の招聘～	125
(5)KIRAMS 防災訓練への参加と KIRAMS 視察	126
(6)SimTiki Simulation Center John A. Burns School of Medicine, University of Hawaii 視察	130
(7)フィリピンにおける広報活動と情報収集	138
(8)タイにおける広報活動と情報収集	142
3) 総括と次年度へ向けた課題	146
Ⅲ 専門家委員会による外部評価	151
1. 年度末活動評価 ―プロジェクトの外部評価として―	152
1) 各部門の活動報告に対する講評	153
2) 各委員からの総評	158
3) 活動に対する総括的な提言	159
Ⅳ 活動総括	161
1. 全体総括及び次年度への課題	162
1) 全体総括	162
2) 次年度への課題	164
資料編	165
・ 委員会要項	166
・ 関連規程	168
・ 委員会記録	170

序 文

本プロジェクトは平成 20 年度から平成 24 年度に渡って展開された文部省特別教育研究事業「緊急被ばく医療人材育成の体制整備」の後継事業として認められ、平成 25 年度から 5 年間の「緊急被ばく医療の教育・研究体制の高度化及び実践的プログラムの開発—高度実践被ばく医療人材育成グローバル拠点の形成—」事業として開始されたものである。

その概要は、前プロジェクトで整備された緊急被ばく医療人材育成体制と培われた知識・技術・経験を基盤として、指導的立場から緊急被ばく医療に対応できる医療専門職者の育成や、適切な放射線リスクコミュニケーションを指導できる人材の底辺拡大を行うとともに、より高度で実践的な緊急被ばく医療人材育成プログラムを開発し、日本学術会議の提唱する国際基準に準拠した高度実践看護師等を視野に入れた"グローバル"な被ばく医療人材育成の拠点を形成するというものである。また、こうした人材育成の要となる被ばく医療を含む放射線看護分野における専門看護師を確立することも目標の一つとして掲げられている。

プロジェクト初年度である平成 25 年度の目標は、事業展開のための組織を再編成し、高度実践看護師を視野に入れた大学院教育プログラムの検討を開始するとともに、国内外の関連機関との連携を図りながら、新たな切り口としての放射線リスクコミュニケーションに関する検討をスタートさせることであった。また、前プロジェクトからの継続事業の恒常的な展開とさらなる発展を期することも重要な目標とされた。

このように本事業は、弘前大学がこれまで取り組んできた緊急被ばく医療教育研究体制の整備を礎として、更なる発展を期する事業として、保健学研究科の総力を挙げて展開するもので、本報告書はその第 1 歩として初年度の活動について取りまとめたものである。

平成 26 年 3 月

平成 25 年度保健学研究科長 對馬 均

I プロジェクトの概要

I プロジェクトの概要

1. 事業の目的・目標

<目的>

東日本大震災以降顕在化した緊急被ばく医療人材育成の重要性と、弘前大学がこれまで整備を進めてきた被ばく医療教育体制を基盤として、今後の緊急被ばく医療に対応できる医療者及び適切な放射線リスクコミュニケーションの指導を担う人材の底辺拡大を行うとともに、より高度で実践的な緊急被ばく医療人材育成プログラムを開発し、日本学術会議の提唱する国際基準に準拠した高度実践看護師等を視野に入れた“グローバル”な被ばく医療人材育成の拠点を形成する。

<必要性・重要性>

東京電力福島第一原子力発電所事故においては、これまで想定外とされていた様々な課題が顕在化した。特に、大規模放射線災害発生時における避難住民の不安への対応を含め、より高度で専門的な判断力と実践力を備え、統括的に問題解決できる被ばく医療の専門家や放射線リスクコミュニケーションを担う人材は不可欠であり、実践的な状況を想定した緊急被ばく医療人材育成プログラムの見直し・高度化が必要となっている。

<取組内容の概要>

国内外の関連機関との連携の下、「被ばく医療人材の高度専門化」と「放射線基礎教育の充実と底辺拡大」を柱とした教育プログラムを開発する。具体的には、国際基準に準拠した高度実践看護師制度や日本看護協会が認定する専門看護師を視野に入れた被ばく医療人材育成の拠点を形成し、新たに高度で実践的な大学院教育プログラムを構築する。また、学校教員及び教職選択学生に対する放射線リスクコミュニケーション教育を行うことで、放射線基礎教育の充実と底辺拡大を図る。さらに、被ばく医療においては長期的な健康管理が基本となることから、後年必要となる放射能拡散地域の環境影響調査や生物学的影響調査・研究を行い、データの収集・蓄積を行い、教育へ還元する。

<期待される効果>

日本の緊急被ばく医療体制の高度化と共に、人材育成の国際的拠点の形成が図られ、放射線のケアやリスクコミュニケーションに卓越した人材が輩出される。

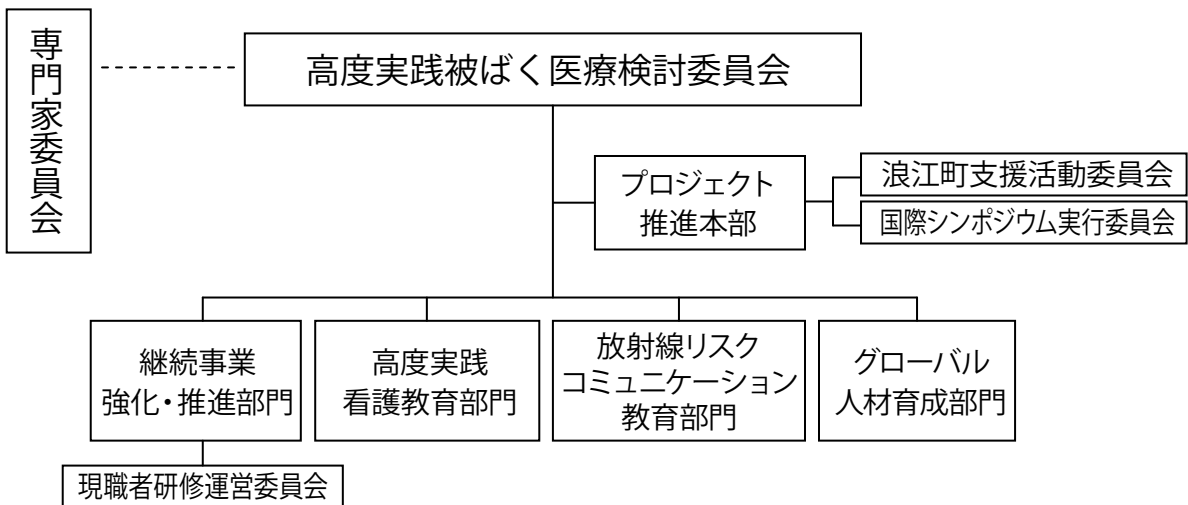
<プロジェクト目標>

- 前プロジェクト 5 年間の総括を基に、課題の克服と改善を図り、学部教育、大学院教育、現職者教育を継続し、恒常的な被ばく医療人材育成に努める。
- 新たな試みとして、大学院教育の中に、国際基準に準拠したより高度で実践的なプログラムを開発・実施し、被ばく医療の専門家となる放射線看護高度実践看護師を養成する。

I プロジェクトの概要

- 教員養成課程学生を対象とした学部教育ならびに学校教員向けのリカレント教育の中で、放射線リスクコミュニケーションに焦点を当てた教育プログラムを開発・実施し、社会における放射線リスクコミュニケーションを担う人材を育成する。
- 蓄積された被ばく医療人材育成の成果を国際的に発信すると共に、留学生の受け入れを中心として、アジア諸国での被ばく医療人材育成の支援を行なう国際的拠点を形成する。

2. 活動組織



■ 各部門のミッション

● プロジェクト推進本部：

プロジェクト全般にわたる管理・運営の司令塔として部門間の共通課題解決に向けた準備・調整を行うとともに、対外的窓口として渉外・広報・啓発活動を展開する。また、旧プロジェクトで芽生えた、被ばく看護や放射能・放射線の生体影響に関する学術研究、ならびに被ばく保健学の人材育成を対象とした研究を戦略的に発展・推進させる役割を担う。

- ▶ 国際シンポジウム実行委員会：国際的成果発信の場としてのシンポジウムの企画・開催・運営を担う。
- ▶ 浪江町支援活動委員会：全学的事業である浪江町支援プロジェクトの健康支援活動を担う。

● 継続事業強化・推進部門：

旧プロジェクトの継続事業である学部・大学院・現職者教育の継続と見直し改善の役割を担う。

- ▶ 現職者研修運営委員会：医療職者対象の被ばく医療研修会の企画・開催・運営を担う。

● **高度実践看護教育部門：**

大学院博士前期課程に新設のコースとして放射線看護高度実践看護コースを立ち上げることを目標とした人材育成計画について、教育課程の編成・実施・評価という PDCA サイクルのプロセスに則り推進する。

● **放射線リスクコミュニケーション教育部門：**

放射線被ばくの知識を持って地域住民や学校生徒に関わる必要のある専門職（学生）を対象としたリカレント教育，一般市民を対象とした啓発活動など，放射線リスクコミュニケーション教育の底辺拡大と実施体制整備・展開の役割を担う。

● **グローバル人材育成部門：--- 人材育成の国際展開**

国外の被ばく医療関連機関との人事交流，学術交流を積極的に進めることで，保健学研究科教員の国際性を涵養するとともに，大学院への外国人留学生の入学を推進する。

● **保健学研究科高度実践被ばく医療専門家委員会：**

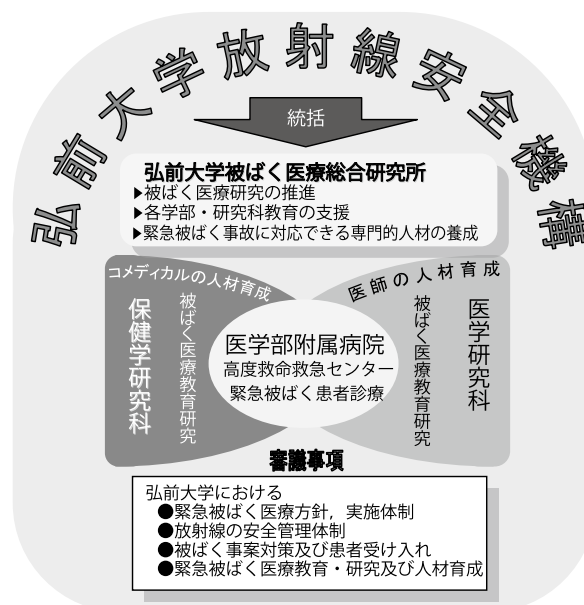
国内の有識者により構成した委員により，プロジェクトの運営・進行状況に対する専門的な助言，指導，ならびに外部評価を行う。

3. 弘前大学における全学被ばく医療体制

■弘前大学放射線安全機構

●弘前大学における以下の事項に関する意思決定機関。

- ▶ 緊急被ばく医療の方針，実施体制に関すること。
- ▶ 放射線の安全管理体制に関すること。
- ▶ 被ばく事案が発生した場合の対策及び患者受け入れに関すること。
- ▶ 緊急被ばく医療の研究に関すること。
- ▶ 緊急被ばく医療に関する教育及び人材の育成に関すること。



4. プロジェクト年度計画（平成 25 年度～平成 29 年度）

■ 平成 25 年度

- 大学院教育プログラムの検討開始（遠隔教育・e-learning の整備）（長崎大・鹿児島大との連携）
- 学部教育プログラムの検討開始
- リカレント教育プログラムの検討開始（青森県との連携について協議）
- 大学院教育のための国内外でのスタッフ研修計画立案（放医研, S P R A, U C S F, ストックホルム大学）
- リスクコミュニケーション教育のための国内外でのスタッフ研修計画立案（放医研・R E A C / T S, S P R A）

■ 平成 26 年度

- 大学院教育プログラムの構築（遠隔教育・e-learning の整備）（長崎大・鹿児島大との連携）
- 学部教育プログラムの構築
- リカレント教育プログラムの構築（青森県との機能的連携強化）
- 大学院教育のための国内外でのスタッフ研修開始（放医研, S P R A, U C S F, ストックホルム大学）
- リスクコミュニケーション教育のための国内外でのスタッフ研修開始（放医研・R E A C / T S, S P R A）

■ 平成 27 年度

- 大学院教育プログラムの中で放射線看護高度実践看護師教育の開始
- アジアからの留学生受入準備
- 学部教育プログラムとして教員養成課程学生への放射線リスクコミュニケーションに関する教育の開始
- リカレント教育プログラムとして学校教員への放射線リスクコミュニケーションに関する教育の開始
- 大学院教育のための国内外でのスタッフ研修継続（放医研, S P R A, U C S F, ストックホルム大学）
- リスクコミュニケーション教育のための国内外でのスタッフ研修継続（放医研・R E A C / T S, S P R A）

■ 平成 28 年度

- 大学院教育プログラムの中で放射線看護高度実践看護師教育の継続・軌道修正（長期履修含む）
- アジアからの留学生受入調整
- 学部教育プログラムとして教員養成課程学生への放射線リスクコミュニケーションに関する教育の継続・軌道修正

- リカレント教育プログラムとして学校教員への放射線リスクコミュニケーションに関する教育の継続・軌道修正
- 大学院教育のための国内外でのスタッフ研修継続（放医研，SPRA，UCSF，ストックホルム大学）
- リスクコミュニケーション教育のための国内外でのスタッフ研修継続（放医研・REAC/T S，SPRA）

■ 平成 29 年度

- 大学院教育プログラムの中で放射線看護高度実践看護師教育の継続・評価（長期履修含む）
- アジアからの留学生受入開始
- 学部教育プログラムとして教員養成課程学生への放射線リスクコミュニケーションに関する教育の継続・評価
- リカレント教育プログラムとして学校教員への放射線リスクコミュニケーションに関する教育の継続・評価
- 大学院教育のための国内外でのスタッフ研修継続・評価（放医研，SPRA，UCSF，ストックホルム大学）
- リスクコミュニケーション教育のための国内外でのスタッフ研修継続・評価（放医研・REAC/T S，SPRA）

5. 平成 25 年度事業目標・計画

- プロジェクト実施に向けた組織編成とミッションの確認
- 継続事業の展開と改善計画の立案
- 新しい大学院教育（高度実践看護）プログラムの検討開始
- 放射線リスクコミュニケーション教育に向けた基本方針の策定とスタッフ研修計画立案
- グローバル人材育成に向けた国内外のネットワーク基盤形成
- 被ばく医療教育方法の改善計画の立案